

混和材料から見た収縮ひび割れ低減と耐久性改善に関する研究委員会

第1回 拡大WG1 議事録

日時：平成21年1月20日

場所：JCI 第3会議室

参加者：(敬称略)名和委員長，山田幹事長，石川嘉崇主査，今本，谷村，壇，中山，石川雅美，井上，大谷，蔵重，浅本，野々目，武田(ゲスト)，閑田(記録)

議事(主な内容のみ記載)

1. X線造影撮影法について(東北学院大 武田先生)

- (1) 0.01mm程度のひび割れまでは検出可能。
- (2) 高炉スラグコンクリートは密実で，ポルトランドセメントコンクリートでは，X線造影剤の浸透程度が違う。
- (3) X造影は，厚さ方向の分布を平均的に表している。
- (4) 武田先生に委員になっていただく。

2. 共通試験について(谷村委員資料ほか)

(1) 拘束試験体について

- ・定着区間長さは200mm程度，これ以上の定着長を確保すればよい。
- ・暫定案として，両端400mm定着，中央部(付着なし)300mm，全長1100mmを採用。
鉄筋は丸鋼 32mm，定着部はねじ加工(M30相当)
- ・事前に，表面コンクリートと鉄筋のひずみの適合を確認する予備試験を実施する方向で検討(谷村委員)。

(2) 試験費用について

- ・基本的に，共通試験参加者が試験費用を負担。
- ・鋼製型枠 1.5万円/個，自由収縮測定モールドゲージ(TML製)PMFL60 3000円/個程度を想定

(3) 基本配合

- ・細骨材，粗骨材，AE減水剤，セメント，BFS，FAは共通，W/C50%，スランプ15cm，基本配合は試練りで決定(谷村委員)。
- ・骨材は共通とし1ヶ所より発送(閑田)